

令和7年度 第2回 佐呂間町ゼロカーボン推進協議会 順末

日時 令和7年11月28日（金） 午後3時～4時20分

場所 佐呂間コミュニティセンター 2階 集会室

出席者：別紙のとおり

※鈴木教育長は用務のため欠席、観光協会は鈴木氏、漁業協同組合は上釜氏が代理出席。

1. 開会

2. 議事

（1）主催者挨拶（武田町長）

- ・初回の協議会の後、アンケート調査、ヒアリング調査などが事務局で進められた。アンケート調査の結果では、大多数の人が地球温暖化の影響を感じ取っているが、対策を実践できていないと回答している。しかし、目標達成のためには一人ひとりが対策に取り組むことが重要となる。
- ・令和5年度に佐呂間中学校に導入した太陽光発電システムは、消費量などの省エネ見える化しており、環境教育に生かす仕組みとなっている。22.4%のエネルギー削減効果がある。
- ・何をしていいか、委員の皆さんに意見をいただきたい。

（2）経過報告 【資料2】

- ・資料により、事務局 新居課長補佐から説明。質疑なし。

9月22日 第1回佐呂間町ゼロカーボン推進協議会を開催

9月25日～10月24日 アンケート調査を実施

10月17日～11月5日 ヒアリング調査を実施

（商工会、農協、漁協、町内の事業所、役場各所管など）

（3）計画策定に係る進捗状況について 【別紙】

- ・資料により、委託事業者である（株）エックス都市研究所 五十嵐氏、中嶋氏から説明。

（説明資料）

1. アンケート調査結果について 【資料3】
2. ヒアリング調査結果について 【資料4】
3. 脱炭素ビジョンについて 【図】
4. 再エネ導入に係る基本方針及び再エネ導入目標について
5. 脱炭素ロードマップ（素案）及び施策案について 【資料5】
6. 意見交換

【取組説明】

- ・オブザーバーの北海道電力、北海道ガスから、自社の取組と自治体連携に関する説明。

北ガス：道内10自治体と連携、赤井川村の村バス、南富良野町の冷暖房設備 等

北電：美幌町、紋別市とのZEB取組、ブルーカーボンの実証実験 等

- ・新庁舎建設について、町より説明。

新庁舎は令和10年度使用開始に向けて実施設計しているが、資材が高騰し、当初の建設費20億が1.5倍となり、省エネ化はさらにコスト増となる。そのためZEBとはならないが、できる範囲での省エネ化、脱炭素化に取り組んでいく。(武田町長)

【質疑応答・意見交換】

- ・太陽光パネルの廃棄は環境負荷がかかるという話を聞いたが事実なのか。

(農協：櫛部委員)

→廃棄問題については国の方で検討が進められており、将来的には問題なく処分できるようになるのではないか。(エックス：中嶋)

- ・自分も太陽光発電を設置しているが、処分の時にどれだけコストがかかるか気になる。

最終的な廃棄処理のことまで考えた形で進めてほしい。(農協：櫛部委員)

→将来を見据えて、社会的な課題と合わせてトータル的な対策を検討していきたい。

(武田町長)

- ・資料の13ページで、2013年から2022年にかけて、森林吸収量を含めて温室効果ガス排出量が41%減となっているが、2013年には森林吸収量が書かれていない。2021年の森林吸収量はどこの部分に入ってくるのか。(管理組合：鈴木委員)

→国の目標設定の方法に従い、基準年度(2013年)の温室効果ガス排出量は、森林吸収量を含めず排出量だけの数字を基準としている。森林吸収量を含めない2013年度の排出量から、森林吸収などを加味して2050年に実質排出量ゼロを目指すという計算方法である。(エックス：中嶋)

- ・2050年の佐呂間町の推計人口は2,000人程度となるはずで、それらを勘案して事業所数等も考慮する必要があるのではないか。(管理組合：鈴木委員)

→人口減少については各種推計を踏まえて考慮している。事業所数については製造品出荷額等から推計しており、自然推計ではそこまで大きく減少する推計結果となっていないが、人口と同じで減少することが予見されるので、もう少し精査していきたい。

(エックス：中嶋)

- ・アンケート結果で補助金があればという回答が多く見受けられた。将来のビジョンに向かっての土台となるような、現在すでにある補助金などがあれば教えてほしい。

(北見工大：木田委員)

→現状として、佐呂間町単独での補助制度は今はない。今後、事業を実施する際には、国や道の補助金を使えるかが要点となる。町の単独事業となる場合は慎重にならざるを得ない。ゼロカーボン推進は国が推奨し、北海道でも目標を立てており、各自治体として避けては通れない課題である。具体的な成果を求めていくには、町単独ではなく、国や北海道など広域的な制度設計が必要と考える。国等への要望を続けていきたい。

(武田町長)

- ・ビジョンは非常にわかりやすく現実的な選択肢が描かれている。アンケートでサロマ湖らしさを求める意見もあったので、この町の特徴として何を打ち出していくのか、今後明確にしていくとわかりやすい。(北見工大：木田委員)

→佐呂間町は農業の町であり、自然環境が大きく影響している。特に畜産では乳牛が多く、牛は暑さに弱いため、温暖化の中で夏場の飼養管理に苦慮している。特徴を出すとすれば、海と農業、山といった環境に関連することを強調した形にしたい。ビジョンについては、さらに多くの方に見ていただき、様々な意見を反映させていきたい。
(武田町長)

- ・自然環境と地域脱炭素を組み合わせたイベント等を行っている他の市町村の事例もあるので、サロマ湖でもそういった取り組みも参考にしてはどうか。

(北見工大：木田委員)

→計画を作つて終わりではなく、いかに地域の方に知つていただきか、一人ひとりができるることを広げることに意味がある。今後の展開の中でいろいろ活かしていきたい。

(武田町長)

- ・再エネの導入目標について、太陽光や風力は大規模なものであると思うので、一般の家庭でもできるような細かい目標設定もしてほしい。また、町民の理解を得るには、広報や防災無線等で少しづつ情報発信をしていってほしい。(建設業：高橋委員)

→再エネだけでなく省エネの取り組みも計画の中に含まれている。啓発という意味で、こういう取り組みをすればどれくらい削減できるかといったものを計画に盛り込んでいく。(エックス：中嶋)

- ・それぞれができるところから取り組むことが重要と考えている。協議会の中でビジョンがある程度固まった段階で、将来的には「ゼロカーボンシティ宣言」も考えていたが、具体的に宣言後に何をやるのかという部分がまだなかつたため、そこまではまだ早いと考えている。いろいろと意見が出てきた中で、宣言も視野に入れて進めていきたい。

(武田町長)

(4) 次回協議会の開催について

令和7年12月中旬（予定）

- ・計画案についての協議を予定している。
- ・書面開催の予定。委員の皆様から多くの意見をいただきたい。

(5) その他

- ・特になし。

3. 閉会

◎主催者挨拶（武田町長）

- ・計画については書面で意見をいただき、より実効性のあるものにしていきたい。